

小

袖いっぱい広がる春の情景。咲き誇る桜、飛び立つ小鳥、立派な乗り物。よく見ると、可愛らしい文様が散りばめられています。でもこの文様、実は、ある物語を表す大切な意味が込められていることを、みなさん、お気づきでしょうか？

光源氏18歳の晩春。病を患い、京・北山の僧を訪ねます。山中、花ざかりの桜に夕霞の見事なころ、光の君は庵の小柴垣から可愛らしい少女を垣間見ます。

「雀の子を犬君（小侍女の名）が逃してしまったの。伏籠の中に閉じ込めておいたのに」と尼君に走り寄り訴える少女。のちに終生の夫婦となる、光の君と紫の上との思いがけない出会いの場面です。



2014年
10月28日(火) — 12月7日(日)
大阪市立美術館
天王寺公園内

御所解文様小袖(源氏物語若紫)
江戸時代 十九世紀 株式会社千總

特別展

うた・ものがたりの

デザイン

— 日本工芸にみる「優雅」の伝統 —



小袖をもう一度、よくご覧下さい。簀の子には雀が逃げてくつがえつた鳥籠を。かたには、はるか飛び去る小雀が。裾近くには桜にかくれて光の君の御車が表示されています。そうです、この小袖には源氏物語「若紫」の帖を読み解くことができます。

このように、日本の美術は、古来より文芸と密接に関わりながら多彩な作品をつくり上げてきました。移ろいゆく自然や、人の心を表す和歌、源氏や伊勢の物語など、文芸は工芸デザインにも深く影響を与えています。

本展では、日本工芸に表された文芸意匠、とりわけ詩歌、物語、謡曲(能)に焦点をあて、料紙装飾・蒔絵調度・小袖、鏡や刀装具、陶磁器などを一堂に展覧。日本の工芸に表れた優雅な造形を通して、日本文化のすばらしさを、ご紹介いたします。



流水紅葉色絵皿 鍋島焼

江戸時代 十七〜十八世紀

大阪市立美術館所蔵 田原コレクション

流水に紅葉をともし描く図は、歌に詠まれる紅葉の名所、龍田川にちなんだ意匠。渦を巻く流れと波に翻弄される紅葉が皿という丸い画面にデザインされている。

古今和歌集(巻五 秋・龍田川)

楓に時雨文字文様帷子

江戸時代 十九世紀

腰高に時雨にぬれる楓を、背には漢詩の文字を散らしている。この二つから、これが「和漢朗詠集」の唐の詩人・白楽天の「不埤紅葉青苔地 又是涼風暮雨天」によっていることがうかがえ、夏の帷子に涼しさをもとめている。公家に仕えた女性の衣と伝えられ、古典に対する高い教養が日常生活に生かされているのがわかる。和漢朗詠集(巻上・紅葉)

夜桜時絵硯箱

江戸時代 十七〜十八世紀

硯箱の蓋表には金銀の時絵で月に桜の花が表される。桜の幹には「あ」た「ら」の文字が描き込まれている。平安時代の歌人・源信明の「あたら夜の月と花とをみなもとのつらおなじくばあわれしられん人に見せばや」の歌。明けるのが惜しい夜の月と桜を思いの通じる人ともに見たいという意味の意匠である。後撰和歌集(巻三・あたら夜の)



特別展

うた・ものがたり

デザイン

日本工芸にみる「優雅」の伝統

2014年10月28日(火) - 12月7日(日)

休館日 月曜日(祝日は開館、翌日休館) ※災害などにより臨時で休館となる場合があります。

開館時間 午前9時30分 - 午後5時(入館は午後4時30分まで)

観覧料 一般 1300円(1100円) 高大生 1100円(900円)

※かつこ内は前売り、20名以上の団体料金。※大阪市内在住の65歳以上の方も一般料金。

※中学生以下、障がい者手帳等をお持ちの方は無料(要証明)。

主催 大阪市立美術館、毎日新聞社 協力 切畑健(京都国立博物館名譽館員)

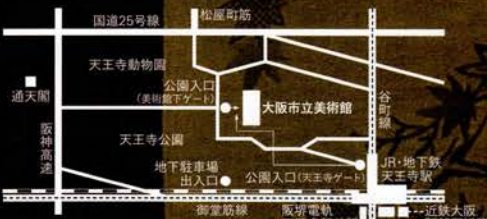
協賛 野崎印刷紙業株式会社



菊に柄杓時絵硯箱

室町時代 十六世紀

水辺に菊と柄杓を時絵で描く硯箱。菊と柄杓を組み合わせ、謡曲「狸々」を表す。海に住む狸々、中国の伝説上の獣の与えた酌んでも尽きない酒壺のおかげで、長く栄えた高風という孝行者の物語。長柄の酌は酒を酌む狸々を、菊花は不老の薬酒を表す。謡曲(狸々)



大阪市立美術館

〒543-0063 大阪市天王寺区茶臼山町1-82(天王寺公園内)

tel. 06-6771-4874 http://www.osaka-art-museum.jp

交通案内 一 JR・地下鉄天王寺駅、近鉄大阪阿部野橋駅下車。

北西へ約400m天王寺公園・公園入口よりお入りください。

特別展

うた・ものがたり

デザイン

— 日本工芸にみる「優雅」の伝統 —

The Tradition of Elegance in Japanese Applied Art:

Designs Inspired by Classical Poems and Tales



2014年 10月28日(火) — 12月7日(日)

月曜休館(祝日は開館、翌日休館)※英吉などにより臨時で休館となる場合があります。

開館時間 午前9時30分 — 午後5時(入館は午後4時30分まで)

主催 大阪市立美術館、毎日新聞社、学術協力 切畑健(京都国立博物館名誉館員)

広報協力 MBS 協賛 野崎印刷紙業株式会社

大阪市立美術館

天王寺公園内

OSAKA CITY MUSEUM OF FINE ARTS